

奈良工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	工業外国語	
科目基礎情報						
科目番号	0058		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	情報工学科		対象学年	5		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	各研究室の卒業研究に関連する分野の文献を使用する					
担当教員	山口 智浩,松尾 賢一,松村 寿枝,内田 眞司,山口 賢一,岡村 真吾,本間 啓道,上野 秀剛,岩田 大志,市川 嘉裕					
到達目標						
各自の関連技術分野に関する基礎的な英文を正確に理解でき、要約できること。 また自分の考えた内容を要領良く発表できること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	英語で記載された書籍や論文誌論文、国際会議原稿の内容が理解でき、自分に研究に関する図・表などのキャプションが英語で表現できる。		英語で記載された書籍や論文誌論文、国際会議原稿の内容が理解できる。		英語で記載された書籍や論文誌論文、国際会議原稿の内容が理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
準学士課程 (本科1～5年) 学習教育目標 (2) JABEE基準 (d-2a) JABEE基準 (f) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 C-2 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 D-1						
教育方法等						
概要	講義は、卒業研究の研究室単位で行い、卒業研究関連分野の文献を輪講形式で講読する。指導は各研究室の教員が当たる。本講義では、技術者として必要な英語による科学・技術文献等や各種資料を理解する。英語による技術発表の実践能力を身につける。					
授業の進め方・方法	与えられた研究テーマについての英語文献を読み、理解することで技術者として必要な英語による科学・技術文献等や各種資料を理解する。					
注意点	<p>関連科目 英語 (一般科目), 卒業研究, 専門科目全般</p> <p>学習指針 基本的な語彙, 英文読解および英作文の知識や専門用語を始め、各自の研究テーマに関する基礎知識が必要である。また、講義における議論に積極的に参加することも重要である。</p> <p>自己学習 各テーマに沿って 指導教員から配布された論文や参考資料をよく理解しておくこと。</p>					
学修単位の履修上の注意						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	輪講	各研究室単位で指定された英語文献を読み、正しく理解することができる。 (16週まで同じ)		
		2週	同上	同上		
		3週	同上	同上		
		4週	同上	同上		
		5週	同上	同上		
		6週	同上	同上		
		7週	同上	同上		
		8週	同上	同上		
	4thQ	9週	同上	同上		
		10週	同上	同上		
		11週	同上	同上		
		12週	同上	同上		
		13週	同上	同上		
		14週	同上	同上		
		15週	同上	同上		
		16週	同上	同上		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用能力向上のための学習	関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

				<p>関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。</p>	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				<p>関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。</p>	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				<p>英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。</p>	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	<p>それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。</p>	3	後1

評価割合

	文献の内容の理解度と発表内容	議論への参加度	合計
総合評価割合	70	30	100
総合能力	70	30	100